



特集

上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン策定

定住圏スタート



地方圏で進む深刻な人口減少、少子高齢化。これに対応するためには、市町村の枠を超えて、「圏域」として連携し、生活機能を確保することが求められます。十和田市と三沢市を中心市として形成された「上十三・十和田湖広域定住自立圏」は、平成25年3月に圏域の将来像や具体的取り組みについてまとめた「共生ビジョン」を策定しました。将来も安心して住み続けられる地域をつくるために、圏域が一体となってスタートラインに立ちました。

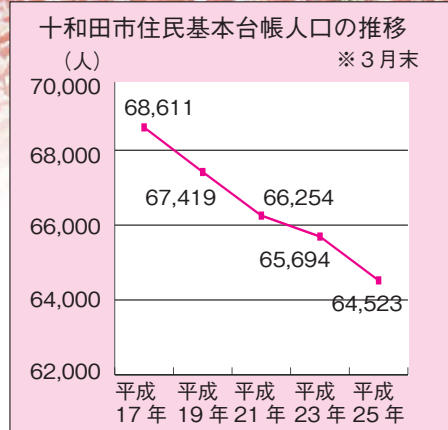
MEMO 上十三・十和田湖広域定住自立圏の歩み

平成22年	02.18	上十三地域広域市町村圏協議会（以下「協議会」）で検討協議会市町村長会議で定住自立圏構想について検討することを決定
	07.14	定住自立圏構想担当者会議を開催
平成23年	02.07	協議会市町村長会議で定住自立圏構想推進を決定関係市町村の提案を募り、具体的な連携事項の検討を開始
平成24年	03.29	十和田市と三沢市による共同中心市宣言
	06	秋田県小坂町が県境を越え圏域に参加
	07	おいらせ町（八戸圏域にも属する）が圏域に参加
	07.27	第1回定住自立圏構想関係市町村長会議10市町村での構想推進および協定内容について市町村長間で合意
	09	各圏域市町村で協定の締結に関し議決
	10.04	上十三・十和田湖広域定住自立圏形成協定 合同調印式
平成25年	02	共生ビジョン懇談会を開催
	03.28	第2回定住自立圏構想関係市町村長会議共生ビジョンを策定

特に地方圏でこの流れは顕著に表れます。そこで、国は平成20年、市町村が連携して取り組む広域行政のカタチ「定住自立圏構想」の推進を始めました。

十和田市では、三沢市と共同で中心市を結成し、関係町村と、平成24年に「上十三・十和田湖広域定住自立圏」を形成しました。

平成25年3月、圏域の具体的な取り組みを示した「共生ビジョン」を策定しました。



人口減少、少子高齢化。今後の日本社会に突き付けられた現実。十和田市でも人口減少が進み、平成25年3月末には6万5千人を下回りました（左記表参照）。

市町村連携のカタチ 定住自立圏構想

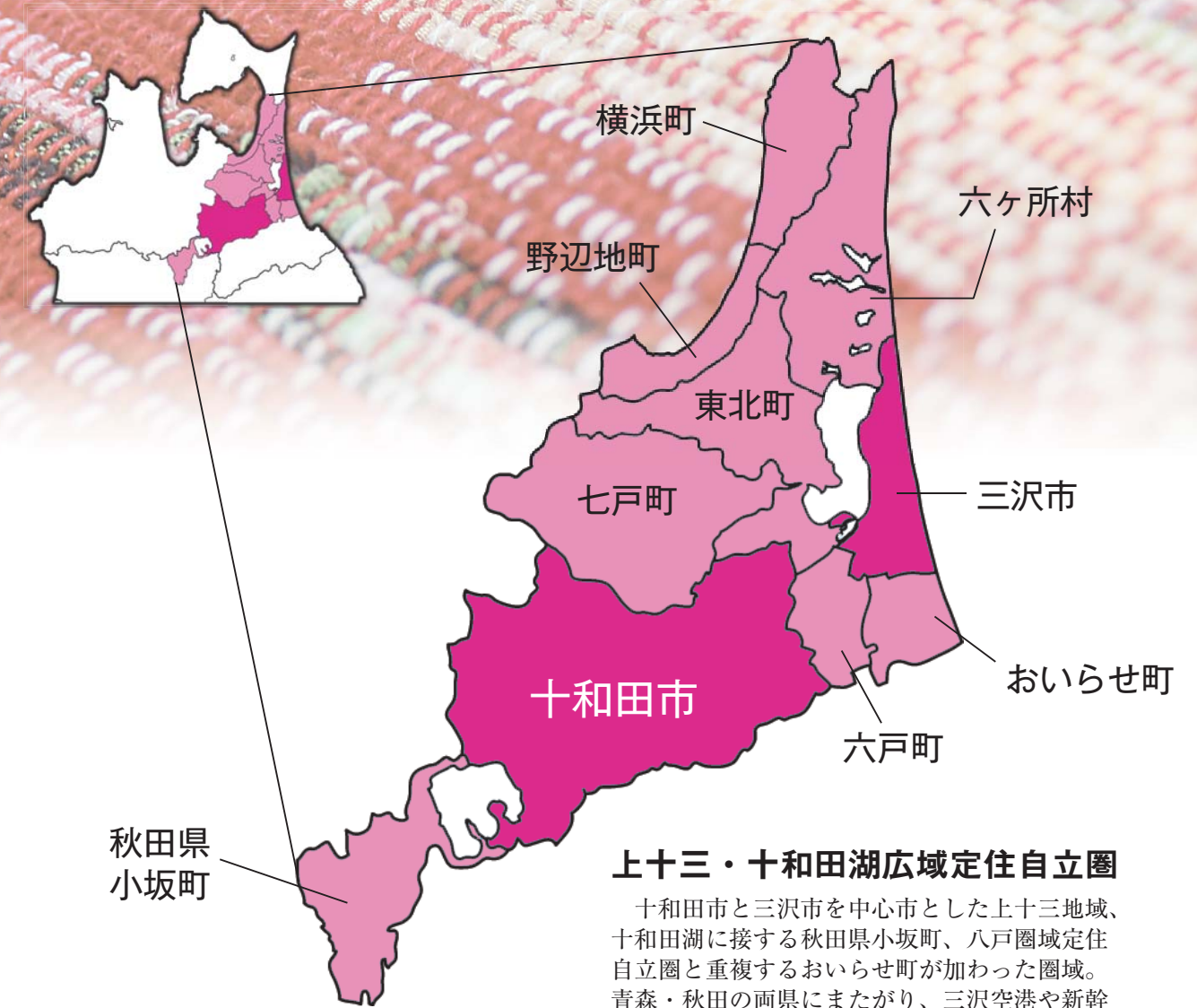
圏域のスタートライン 共生ビジョン策定

定住自立圏は、中心市と関係町村が連携し、人口定住に必要な生活機能を確保するための取り組みです。共生ビジョンは、学識経験者や各分野に關係する圏域の住民のみななどで構成される共生ビジョン懇談会委員の意見を踏まえて、策定しました。

共生ビジョンに定める具体的取り組みは、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つの柱に分かれています。そして、医療や福祉、地域公共交通などの分野ごとに合計30事業で構成されています（6・7ページ参照）。

事業の実施は、中心市（十和田市、三沢市）とその事業に關する町村が取り組みます。期間は、平成25年度から29年度までの5年間で、毎年度見直しを行います。

共生ビジョンの内容は、10年、20年先を見据えた取り組みです。上十三・十和田湖広域定住自立圏は、「できることから着実に」を合言葉に、持続可能な地域づくりに向けて第一歩を踏み出しました。



上十三・十和田湖広域定住自立圏

十和田市と三沢市を中心市とした上十三地域、十和田湖に接する秋田県小坂町、八戸圏域定住自立圏と重複するおいらせ町が加わった圏域。青森・秋田の両県にまたがり、三沢空港や新幹線七戸十和田駅などの高速交通拠点、豊かな自然や特産品に恵まれ、特色ある観光資源にあふれています。



共生ビジョン事業概要

具体的な取り組み 30 事業

10 市町村が互いの特色を認め、尊重し合いながら暮らしやすい豊かな圏域を目指します。また、共生ビジョン懇談会で出された意見などを踏まえ、「できることから着実に」を合言葉に取り組んでいきます。

1 生活機能の強化

医療 地域医療ネットワークの充実

- 上十三地域連携パス・ネットワーク協議会事業
圏域病院間で患者紹介など連携し、機能分担を図り、適切な医療を受ける体制を整備します。
- 十和田湖診療所運営事業

福祉 子育て支援の充実、適切な介護サービス等の提供

- 病児・病後児保育事業
- ファミリーサポートセンター事業の研究・検討
- 保育所広域入所に関する連携
十和田湖畔地区で、住居地以外の保育所の入所を推進します。
- 介護認定審査会事業
- 障害者介護給付等審査会事業



教育 よりよい学習機会の提供

- 図書館相互利用促進事業
- 図書館蔵書充実事業
- 生涯学習情報提供事業
各市町村が実施している各種講座などの情報を共有し、多くのかたが受講できる体制を整備します。
- 英語教育推進事業
小・中学校における英語教育の充実のため、英語指導法に関する研究会やスピーチコンテストなどを開催します。
- 教育事務の委託



産業振興 圏域の魅力を生かした観光の振興等

- 広域観光会議の開催
- 広域観光振興推進事業
圏域内の広域的な観光ルートの開発や地域観光資源の発掘を検討します。
- 十和田湖観光誘客事業
自然にやさしい十和田湖のブランドイメージが全国に定着するよう、エコロジー事業などを展開します。
- 特産品の販路拡大事業

防災・消防 災害に強く、安心して住める圏域

- 防災体制整備・地域防災計画等の情報共有等
- 災害時の消防出動相互応援事業
- 消防指令業務共同運用等事業
※ 8 ページで紹介

ライフライン 十和田湖畔地区の水道サービスの向上

- 簡易水道の共同利用の研究・検討

※共生ビジョンは市ホームページ（行政・財政＞行政・まちづくり＞定住自立圏共生ビジョン）でダウンロードできるほか、市役所新館2階政策財政課で閲覧できます。

2 結びつきやネットワークの強化

地域公共交通 多様な交通手段を利用できる圏域

- 圏域公共交通会議（仮称）の開催
- 生活交通路線維持事業
路線バスやコミュニティバスなどの
- 運行事業者への支援を行うほか利用促進を図ります。
- 青い森鉄道利用促進等事業

インフラ整備に関する要望活動等 利便性向上のための道路や空港の整備促進

- 道路等のインフラ整備に関する要望
- 三沢空港振興会事業

公共施設 運動施設や文化・社会教育施設等の相互活用促進

- 公共施設の相互利用促進事業
圏域住民が圏域内の公共施設を相互に利用できる環境を整えます。

文化・芸術 美術館や記念館等の連携

- あおもりアートぐれっとパス事業
十和田市現代美術館、三沢市寺山修司記念館、七戸町立鷹山宇一記念美術館が連携し、共通パスポートの販売や広報などを行います。



圏域内の交流促進 情報を共有し、圏域住民の交流を促進

- イベント交流の促進
圏域内のイベント情報の周知宣伝を行い、相互交流に取り組みます。

3 圏域マネジメント能力の強化

人材育成 職員の資質向上とネットワークの強化

- 職員研修交流事業
- 職員人事交流事業



▲十和田市現代美術館企画展「flowers」ではスタッフが南部裂織で作られた花のコサージュを着用しています

南部裂織のように： 地域の特色を生かし 新たなひとつの圏域を紡ぐ



『南部裂織 フラワーコサージュ』

「Sakiori 3G Project」による監修のもと、「南部裂織保存会」が制作しました。愛らしい花のコサージュで地域に残る手技の美しさを伝えています。



未来永劫愛される 圏域をつくらう



古舘 正樹 Furudate Masaki
十和田地域広域事務組合消防本部
通信指令課長 消防司令長

共同運用により消防力の強化につなげたい

これまで、通信指令業務は各消防本部が単独で整備し、運用していましたが、複数の消防本部で整備することで、地域の消防力向上や費用面の節減効果など多くの有効性があります。
また、共同で運用することにより、大規模災害時などにおける迅速な広域応援体制の充実強化にもつながります。

災害出動では、1分1秒の遅れが命取りになる場合があります。共同指令センターの整備により、119番通報から出動までの時間短縮を図り、被害の軽減や救命率の向上に努め、上十三地域4消防本部の消防力の強化につなげたいと思っています。



▲現在の十和田消防本部通信指令室。119番通報を受けると、住所を口頭で聞き取り位置を検索。「統合型位置情報通知装置」を導入した共同指令センターを整備すると、通報者の位置情報を瞬時に確認することができ、出動時間の短縮につながります

連携メリットを生かす 圏域内全体の住民サービスが向上

共生ビジョンの事業のひとつ、「消防指令業務共同運用等事業」を紹介します。
これは、※上十三地域4消防本部が共同で高機能な消防指令システムを整備し、共同指令センターを運用するものです。共同指令センターは、4消防本部を管轄し、十和田消防庁舎内に設置を予定。119番の通報者の位置が瞬時に地図に表示される「統合型位置情報通知装置」を導入するものです。その位置情報をもとに、各消防署に出動指令が即座に行われ、以前より出動時間が短縮されます。共同で整備することで、ひとつの消防本部で整備するよりも大幅にコストが削減されます。
今年4月に上十三地域4消防本部消防通信指令事務協議会（会長・沼田隆志十和田地域広域事務組合消防本部消防長）が設置され、平成28年度からの運用開始に向けて準備を進めています。
市町村間で連携して高機能なシステムを導入することで、住民サービスの向上を図ります。

※「上十三地域4消防本部」…十和田地域広域事務組合（十和田市、六戸町）、三沢市、北部上北広域事務組合（野辺地町、横浜町、六ヶ所村）、中部上北広域事務組合（東北町、七戸町）の4消防本部。共同運用は県内初の事例。実現すると、2市5町1村の人口約183,000人、面積約2,054km²を管轄することになります。

圏域の目指す将来像 南部裂織のように

上十三・十和田湖広域定住自立圏は、10市町村で構成される広大な圏域です。伝統工芸・南部裂織のようにお互いに多様な特色を認め合い、尊重しながらひとつのカタチに紡いでいく、そんな将来像を目指します。

4月から十和田市現代美術館で行われている企画展「Flowers（フラワーズ）」では南部裂織で作られた花のコサージュが生まれました。デザイン性を取り入れ、形を変えてなお現代に受け継がれていく伝統工芸・南部裂織。わたしたちが住むこの圏域も次世代に受け継がれていきます。人々の生活が変化している中、10年、20年先を見据えた取り組みが求められています。

「できることから着実に」わたしたちにも、できることがあるのではないのでしょうか。上十三・十和田湖広域定住自立圏は、目指すべき未来に向かって、スタートを切りました。

●特集
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン策定
定住圏スタート
おわり